

「最初のオーロラ (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



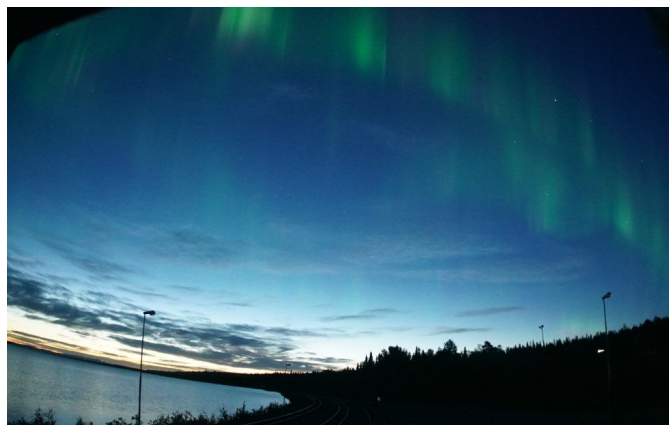
真冬のオーロラは、真っ暗な夜空に雄大な光のカーテンが舞う。時には写真のように、オーロラが空全体を覆い、更に地面(雪面)まで緑色に染めるほど強いオーロラも出現する。



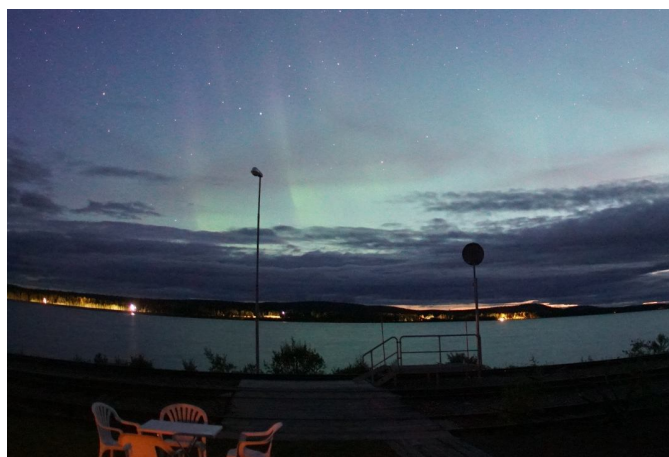
西側←

→北側

秋のオーロラは、冬のオーロラのような派手さはない。オーロラそのものの強度(オーロラの実体)は、季節は関係なく、強いオーロラも一年中出现しているはずである。しかし、8月下旬はまだ夜の時間が非常に短く、北の空でも完全に暮れることはない。上の写真では、画面左側が西、右側が北である。日本では南の空のほうが明るい。夏から初秋の北極圏では、深夜には北の地平線に明るさ(薄明)が残る。オーロラは非常に淡い光芒なので、この地平線上に残った薄明が観測を邪魔するのだ。



これは北側に設置したカメラの、ほぼ同時刻の画像。西側のカメラがとらえたオーロラが、アーチ状に延びて、北の空につながっているのだ。よく見ると、3筋のバンド・オーロラが出現している。もし真冬の空の暗い時期だったら、非常に明るいオーロラだろう。



しかし、秋のオーロラにも良い点が多い。写真手前にはテーブルとベンチが写っている。まだ夜間も寒くないので「オーロラを見ながら外で一杯！」なんてことも可能だろう。



また、湖がまだ凍っていないので、写真のようにオーロラが湖面に反映する様子も観望できる。私はまだこの光景を自分の目で見たことがない。いつか9月の北極圏に行きたいと思っている。